

中部地区 公民館だより

第135号

令和4年5月10日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

指定管理団体「上山市中部地区公民館運営協議会」

による事業運営がスタートしました。

3月11日(金)、中部地区公民館運営協議会設立総会を開催し、指定管理移行についての報告後、運営方針、事業計画、収支予算など協議いただき決定しました。

運営方針

新型コロナの感染防止策の更なる徹底を図りながら、コロナ禍においても事業の出来る方策を考えながら、地域の方々の出会いの場、触れ合いの場、自己研鑽の場、学習と交流の場を数多くつくることにより、人と人とのつながりを強め、生きがいある豊かな人生に資する。また、自主的な住みよく潤いのある地域づくりを推進できるよう、公民館運営にあたっていく。

重点目標

- ① 中部地区公民館を地域の人にとって、さらに身近な公民館にする。
- ② 地域内外の団体等との連携や交流を行い、つながりを深める。
- ③ 地区の人材資源を活用し、地域づくりを推進する。
- ④ 体育レクリエーション事業により、地区のコミュニティを強める。
- ⑤ 地域づくり委員会の地域づくり活動をさらに進め、サポーターの協力を得ながら地域の交流を広げる。
- ⑥ グラウンド・ゴルフ愛好会及び各種愛好会の事業を支援し、積極的に男性の参加を得られるよう努力する。

令和4年度事業計画

一般講座事業

スマホ教室、通信大会(短歌・俳句・川柳)、防災講座、ものづくり教室、上山城学芸員講話、落語、しめ飾り作り、救命救急講座

体育レクリエーション事業

キックベースボール講習会、ゆっくりウォーキング西山、街歩きウォーキング、グラウンド・ゴルフ大会、フライングディスクと輪投げ大会、地域の宝さがしウォークラリー、ヨガ教室、出前スポーツ教室

高齢者教室(はこべの会)

開級式、公民館美化活動、一日研修会、健康講座、映画鑑賞、ふるさとふれあいフェスティバル、スポーツ教室、歌の教室、閉級式

中部地区公民館愛好会

グラウンド・ゴルフ、男の料理、俳句、短歌、百歳体操、川柳

各事業への参加は中部地区在住の方が対象になります。コロナ感染の状況により、事業内容が変更になる場合があります。なお、事業活動中の写真を公民館だよりに掲載する場合がありますので、ご了承くださいようお願いいたします。

4月6日(水)、公民館会議室1において、令和3年度上山市中部地区公民館会計監査が行われ、承認いただきました。公民館だよりにて報告とさせていただきます。

—お知らせ—

公民館の FAX 番号が 673-0379 に変更になりました。ご利用の際はご注意ください。

令和4年度 役員名簿

公民館運営協議会

◎委員長 ○副委員長 ☆監事 【敬称略】

	地区役職	地区名	氏名		地区役職	地区名	氏名
1	地区会長会	栄町	秋保 仁	13	学識経験者	下十日町	鎌上 宏
2		東町	三浦 正雄	14		北町	堀川 栄助
3		八幡丁	荒井 伸一	15	民生児童委員	東町	片桐 洋子
4		西山	◎ 牧野 義文	16	高齢者教室	仲丁	☆ 田中 徹
5		上十日町	片桐 充	17	子ども会 育成会等	栄町	佐竹 淳一
6		沢丁	☆ 長岡 道子	18		軽井沢	佐々木 壽
7		上新丁	安孫子剛宏	19	事業協力員	上十日町	○ 太田 伸夫
8		新町	布川 和雄	20	公民館長	仲丁	木村 利明
9	女性代表	八日町1	原田あおい		顧問	美咲町	鈴木 省三
10		荒町	尾形 礼子				
11		下十日町	羽島 弘子				
12		新町	菊田喜美子				

事業協力員

【敬称略】

地区名	氏名	地区名	氏名
上十日町	◎ 太田 伸夫	沢丁	◎ 斎藤貴久子
中十日町	安孫子哲郎	新湯	小池ますみ
下十日町	◎ 羽島 健夫	荒町	◎ 高木 則子
上新丁	◎ 安孫子剛宏	八幡丁	◎ 永井 仁
下新丁	鏡 新一	仲丁	児玉 正之
北町	鏡 陽一	湯町	木村 勝也
栄町	齋野 幸男	湯町新道	
八日町1	鹿野内 健	軽井沢	◎ 高橋 秀一
八日町2	新寺 登	御井戸丁	村山 陽平
美咲町	柏倉 正市	新町	菊田喜美子
東町	稲毛 陽一	西山	斎藤 正行

退任なされた方々には、これまで公民館活動にご尽力いただきまして、厚くお礼申し上げます。
また、再任、新任の役員の皆さまからは、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

公民館大掃除

日時 5月28日(土)午前7時50分集合(午前8時から1時間くらい)
 集合場所 公民館1階ギャラリー
 内容 公民館内、駐車場などの清掃
 持ち物 清掃用タオル1本、上履き

◎ご協力いただける方は5月25日(水)までご連絡ください。

ボランティア募集



参加者募集

スマホ教室 2回目 (西山を散策しながらスマホ活用術を学びます)

ゆっくりウォーキング 西山

(ゆっくり、西山を散策します)

*健康ポイント対象事業・20P 付与

日時 5月28日(土)午前9時30分出発
集合場所 公民館1階ギャラリー
対象 中部地区在住の方
参加費 無料
持ち物 マスク着用、スマホ、飲み物、動きやすい服装
申込受付 5月16日(月)午前9時から
申込締切 5月20日(金)
その他 雨天の場合は上履きをお持ちください。会議室にて講話をおこないます。



街歩きウォーキング 坊平

日時 6月3日(金)午前9時集合、無料バスにて坊平に行きます。
集合場所 公民館1階ギャラリー
対象 中部地区在住の方
参加費 無料
持ち物 マスク着用、飲み物、動きやすい服装
申込受付 5月16日(月)午前9時から
申込締切 5月27日(金)
その他 雨天の場合は上履きをお持ちください。会議室にて講話をおこないます。



*健康ポイント対象事業・20P 付与

初夏の坊平を散策しましょう



苔盆栽・テラリウム教室

苔盆栽 陶磁器に苔と植物を植え付ける盆栽
テラリウム ガラス容器などに苔を植えて楽しむ

日時 6月17日(金) 午前10時から
場所 中部地区公民館 多目的ホール
対象 中部地区在住の方
募集人数 10人
材料代 800円
持ち物 マスク着用、上履き、必要な方は飲み物
申込受付 5月16日(月)午前9時から
申込締切 募集人数になりしだい締切ます。



苔盆栽 テラリウム

5月の予定

10日(火) 事業協力員会
13日(金) 地区会長会
15日(日) キックベースボール講習会
16日(月) サポーター会
17日(火) はこべの会開級式
19日(木) スマホ教室 1回目
28日(土) 公民館清掃、スマホ教室2回目、サポーター会視察研修、ゆっくりウォーキング

5月のお知らせ

☆ 百歳体操は12日、19日、26日です
☆ はこべの会サロンはお休みです

6月の公民館だよりは6月7日(火)発行です。

地域の宝再発見

NO.70

シリーズ『城廻り本丸』（8）松山御殿のこと～沢庵禅師の指南？

土岐頼行侯の松山御殿築造はあったのかなかったのか。松山御殿は確かに築造されました。が、発掘確認調査はなく詳細全貌は不確かなままです。

松山御殿が造られたのは万治元年（1658）です。前号の頼行侯と頼長の湯町湯屋で対面した折に父は松山館へ遊びにいらっしゃいと誘っていました。ところで上山城は『上山城地明細記』にあるように、東西約二百間、南北三百間の月岡天神森の丘に築造された平山城です。高楯城から天文四年（1535）現地に築城と伝えられ、江戸幕藩時代になっての初代藩主能見松平重忠侯元和八年（1622）10月19日入封、次の蒲生忠知侯、寛永五年（1628）3月28日入部の土岐氏ら代々領主が、城郭を改修・補修してきました。以降、丘を拡張するほどの城郭拡張はないようです。そのためなのでしょうが土岐頼行侯は万治元年（1658）に松山台に屋形（別館）を構築しました。

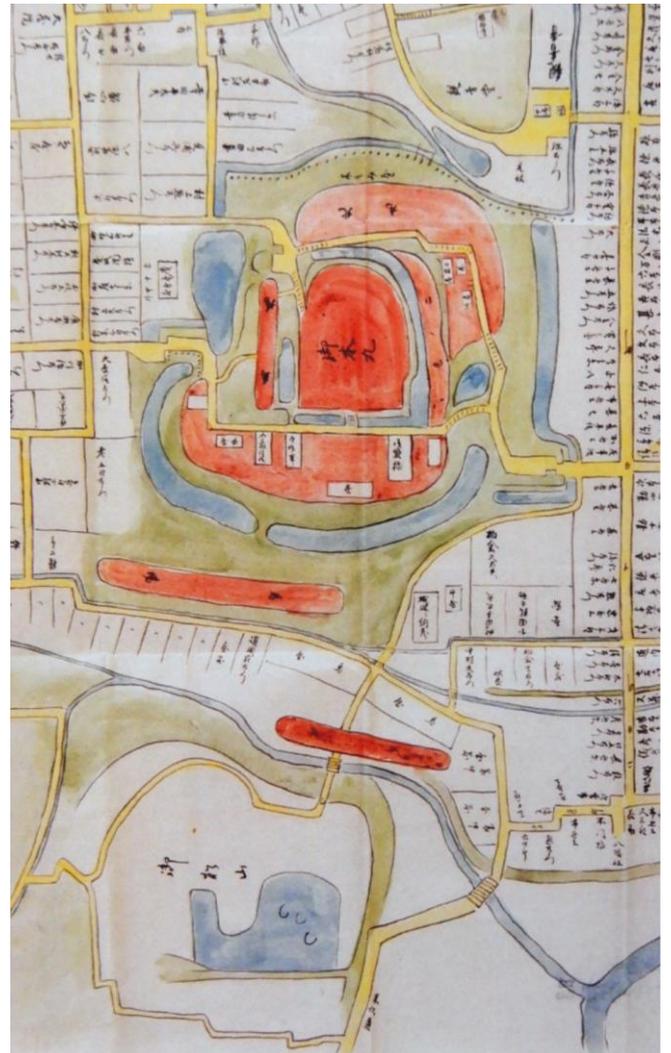
「万治元年（1658）松山屋形建て西光寺を今の寺地へ移される」（『上山三家見聞日記』）、「土岐山城守侯御代万治元年にこの寺地を召し上げられて別荘御建築に相成り西光寺を今の石崎の地に移されしなり」（『上山見聞随筆』）と記され、また西光寺由来の「福寿山西光寺の歴史」にも記されています。

松山台屋形造営の目的は不明です。しかし資料に「御茶屋敷」という文言が見られます。少し視点を変えます。沢庵禅師が上山に流罪となり寛永六年（1629）お盆頃に着きました。若い頼行侯は沢庵禅師に治世のあり方に多くの指南を受けました。沢庵禅師の但馬国出石に生まれました。ゆかりの地を訪ねると出石（兵庫県豊岡市）の宗鏡寺内を流れる沢そばに沢庵居住の庵があり、また後に住持した和泉国堺の南宗寺には著名な枯山水の庭があって、沢庵は水について悟るところがあったのだと思いました。その沢庵は上山の地勢を前提として若い藩主に治世を説いたことでしょう。

月岡から松山の間には荒町川があり城から橋

による忍び道、松山御殿造営の財源のこと、また虚空蔵山からの引水が堰によって松山台に引かれたことなど伝承の多々も市史は紙数を費やして検証しています。

ただ城郭整備の関わりで、上山城（200m）の北北東の湯ノ上観音寺や愛宕神社台地（190m）、北方の山王山（212m）からは城内が眺望されることを忌避し、観音堂寺、清光院を下の地に下げ、元清光院跡地に頼行嫡男頼長の氏神山王権現社として建立し城防衛の施策を図ったとされます。頼行侯、頼隆侯は別館でどんな暮らしをしたのでしょうか。



「土岐伊豫守御代上山図」（上山市蔵、「上山城絵図と瓦」より）

※参考文献 「上山市史」、「上山三家見聞日記」、「上山見聞随筆」などを参照しました。

○内の数字は筆者が計測した標高です。